

授業概要

本コースでは、近代の一連の哲学的思索が自らの時代と対峙し、またそれを形作っていった苦闘と挫折の連続を、その大局的な流れに沿って追っていけるよう講義します。近代思想が古代ギリシア哲学伝統（存在論）と一神教伝統（啓示と経綸）によって決定的な形で規定されてきたという側面を特に重視します。細々とした知識を暗記するよりも、重要トピックにおける根本的な考え方を理解することに重点を置き、また批判的角度から個々の思想潮流の現代的意義を考えていきたいと思えます。ラッセルの『西洋哲学史』Ⅲと『メルロ=ポンティ 哲学者辞典』Ⅱ・Ⅲを講義のベースとして使用します。合わせて様々な思想家の著作からの抜粋も読む予定です。

授業計画

第 1 回	イントロダクション/近代西洋思想の二源泉
第 2 回	マキャヴェリ
第 3 回	デカルト
第 4 回	大陸合理主義およびイギリス経験論へのデカルト哲学の影響
第 5 回	社会契約論（1）
第 6 回	社会契約論（2）
第 7 回	啓蒙主義と世俗主義
第 8 回	カント（1）
第 9 回	カント（2）
第 10 回	カント哲学とドイツ観念論
第 11 回	功利主義
第 12 回	社会主義とその周辺
第 13 回	ニヒリズムと生の哲学
第 14 回	プラグマティズム
第 15 回	現代思想の源流/結語
第 16 回	最終試験

到達目標

- (1) 近代哲学特有の問題設定や用語法に習熟することができる。
- (2) 近代哲学における古代ギリシア哲学の読み替えという契機と一神教的基層を把握することができる。
- (3) 近代哲学が現代社会の仕組みや今日の学問のあり方を形成していった過程を理解することができる。
- (4) 近代哲学の発展に自然科学や同時代的状況が及ぼした影響を知ることができる。

履修上の注意

予備知識は特に必要ありませんが、高校の倫理の教科書ないしネット上の情報源を用いて、コース開始前に西洋思想史の概略を掴んでおくと、理解度が格段に高まるはずで、毎回出席し、集中して聴講してください。授業自体は通常の講義方式で行いますが、ディスカッションやグループワークの時間も設け、主体的な参加を促すつもりです。授業中や授業後の質問や反論を大いに歓迎します。考えることの喜びを知る機会となることを切に願っています。

予習・復習

毎回授業終了時に、復習のためのキーワードを与えます。

評価方法

最終試験の成績による（試験 100%）。

テキスト

適宜プリントを配布します。意欲のある学生には別途参考文献を指示します。